

第 57 回日本神経学会学術大会「メディカルスタッフ・ポスターセッション」にご参加くださいました皆様へ

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

此の度は、第 57 回日本神経学会学術大会にご参加いただき、誠に有難うございました。幸い連日好天にも恵まれ、お蔭さまで 7,463 名という多くの皆様にご参加いただきまして、無事終了することができました。これもひとえに皆様のご協力とご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

徳島大学神経内科は 2000 年 11 月に私が初代教授として赴任した後 2003 年に正式に神経内科の講座として開設されました。歴史が浅くスタッフの数も少ない主催校であったため、至らぬ点多々あったこととお詫び申し上げます。当教室では、開設以来、一貫して「なおる神経内科」を目指しておりましたが、それを今回のメインテーマに、また教育セッションを増やして「わかる神経内科」をサブテーマにさせていただきました。

神経疾患は、患者数の非常に多い脳卒中・認知症から希少難病にいたるまで、広範囲にわたります。一般に神経疾患は治らないというイメージが強いようですが、最近では例えば脳卒中は急性期治療の進歩もさることながら後遺症に対してもロボットスーツやボツリヌス治療など新たな治療法が開発されつつあります。多発性硬化症や重症筋無力症、パーキンソン病といった神経難病に対する治療も充実してきました。一方、認知症や多くの神経難病の治療は症状を改善させる程度に効果がとどまっていますが基礎研究においては目覚ましい成果があがっておりそれが実用化されるのも遠くないと思います。このような「なおる神経内科」の実践においてメディカルスタッフの皆様のご協力は不可欠です。本学術大会から座長をもうけての実施となりましたポスターセッションには 158 題と多数の応募をいただき優秀演題に選ばれた発表以外にも多数の優れた演題が見受けられました。また今回は「わかる神経内科」の一環としてメディカルスタッフ教育セミナーを 2 日にわたり開催し多くの皆様に参加していただきました。

神戸大会の全日程が無事終了しましたこと、また大会を大いに盛り上げていただきました皆様に重ねて心より御礼を申し上げます。神戸大会での皆様のご活躍が神経疾患治療のさらなる発展に繋がることを祈念いたします。徳島大学神経内科の医局員、および学術大会運営事務局一同、神戸にありながら徳島も感じていただくおもてなしを心掛けて、精一杯大会運営にあたらせていただきました。会期中は不行届きの点多々あったかと存じますが、何卒、ご寛容下さいますようお願い申し上げます。本来ならば、拝眉のうえ御礼を申し上げなければなりません、略儀ながら御礼のご挨拶とさせていただきます。

末筆となりますが、皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

謹白



平成 28 年 5 月 31 日

第 57 回日本神経学会学術大会 大会長  
徳島大学臨床神経科学（神経内科） 梶 龍児

【大会長校事務局】

徳島大学大学院医歯薬学研究部医科学部門内科系臨床神経科学分野

【学会事務局】

日本神経学会事務局

【運営事務局】

第 57 回日本神経学会学術大会運営事務局（株式会社コングレ）